



組み立て前の風力発電機部品を見学。



コープ東北羽川風力発電竣工式（2016年10月8日）。

## 第6章

# 環境活動

地球温暖化防止と原発に依存しない事業と暮らしをめざし、取り組みをすすめています。

## いわて生協 環境方針

### 環境理念

2011年3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所の重大事故は私たちの生活全般にわたって深刻な影響をもたらし続けています。

電気や化石燃料が十分に供給されることを前提にした従来の考え方は根本的に変えていくことが求められています。

いわて生協は、理事会で決定した「原発をすみやかに廃止し自然エネルギーを中心としたエネルギー政策

へ」の見解と方針に基づき、国に対して原発に依存しないエネルギー政策や再生可能エネルギーの急速な導入を求めます。また、自らも、原発に依存しない事業と暮らしをめざし、CO<sub>2</sub>削減目標を持ち、再生可能エネルギーの活用・導入を積極的に推進し、従来から掲げてきた「持続可能な社会の実現」と人類共通の課題である地球温暖化防止のための活動に取り組みます。

### 環境方針

1. いわて生協は、東日本大震災によりくらしの価値観が大きく変わったことをふまえ、従来の活動の枠や発想にとらわれることなく、積極的に知恵を込めて以下の課題に取り組みます。
  - (1) いわて生協の事業における環境負荷を減らすため、マネジメントラインを通じて、全常勤者が、日常の仕事としてPDCAサイクルをまわして継続的な改善を積み重ねていきます。
  - (2) 資源を大切にすることを進め、組合員と一っしょに資源節約とリサイクル活動に取り組みます。事業者責任として容器包装の100%回収をめざしリサイクルの目標を設定して取り組みます。レジ袋節約率を高め、早期にレジ袋有料化を実現できる環境づくりをすすめます。
  - (3) 常勤者・組合員それぞれが、節電と燃料の効率的な使用に取り組みます。
  - (4) 産直商品、アイコープ商品の開発と利用普及や地産地消の活動をいっそう推進し、県内農林水産業の復興・振興に寄与します。産直商品の輸

送エネルギー削減によるCO<sub>2</sub>削減効果についてわかりやすいお知らせを行います。

- (5) 太陽光発電・風力発電・木質バイオマス発電をはじめ再生可能エネルギーの導入を推進します。また、施設・設備の省エネ型への更新、エネルギー効率のよい車両の導入を進めます。
  - (6) 岩手の森林を保全・育成し環境意識を高めるためコープの森づくりをすすめます。
2. 環境に関する法令を守り、事業によって環境を汚染しないよう、その予防に努めます。
  3. 上記の課題に、全常勤者が主体的に取り組めるように、環境教育を実施します。
  4. この環境方針と環境活動の取り組みの結果を定期的に公表し、社会的責任を果たすとともに、環境問題について社会全体の取り組みがさらに進むことへ寄与します。

制定日 2011年5月23日  
 改定日 2017年3月27日  
 いわて生活協同組合  
 理事長 飯塚明彦

## 地球温暖化防止の取り組み

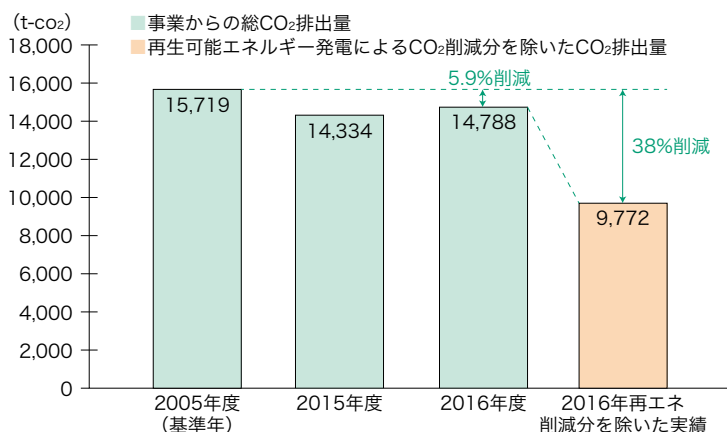
### 再生可能エネルギー導入でCO<sub>2</sub>排出量38%削減(2005年度比)

2016年度いわて生協のCO<sub>2</sub>(二酸化炭素)排出量は、「2005年度比20%削減」の目標に対し「38%削減」となり、目標を達成することができました。また、中期計画(2018年度)の目標である「29%削減」も達成することができました。

これは事業所での節電や施設設備の省エネ化など、事業でのCO<sub>2</sub>排出量削減の取り組みに加え、この間取り組んできた再生可能エネルギーの導入によるものです。

再生可能エネルギーは2007年度から事業所へ設置をすすめてきた太陽光発電に加え、2016年度は野田木質バイオマス発電、コープ東北羽川風力発電「風みらい1号」の稼働、日本生協連の新電力会社「株式会社地球クラブ」からの電気購入がスタートしました。

さらに2017年度は花巻木質バイオマス発電への参加が決定し、CO<sub>2</sub>排出量をいっそう削減できる見通しです。



### 電気自動車7台でCO<sub>2</sub>排出量約21トンを削減

電気自動車は、排気ガスを排出しないため、排出ガス相当のCO<sub>2</sub>を減らすことができます。2016年度は7台が稼働。走行距離は12万2千kmで、ガソリン車と比較して約18トンのCO<sub>2</sub>削減につながりました。



#### 環境分野の第8次中期計画

- 地球温暖化防止と原発に依存しない事業とくらしをめざし、CO<sub>2</sub>排出量削減と再生可能エネルギーによる創電に取り組みます。
  - CO<sub>2</sub>排出量は、2018年に「2005年度比29%削減」をめざします。
  - 原発に依存しない事業をめざし、事業所の電力を全て再生可能エネルギーによる発電でまかなえるよう、取り組みます。
- 「アイコープ商品」「産直品」を、輸送エネルギーの節約になる環境にやさしい商品として利用を広げます。
- 廃棄物の削減とリサイクルによる再資源化をすすめる、循環型地域づくりに貢献します。
  - 容器包装の軽量化、削減、リサイクルによる再資源化、レジ袋の削減などをさらにすすめます。
  - リサイクルセンターを建設し、リサイクル品の拡大、再資源化をすすめます。
- 組合員とともに、環境にやさしい持続可能なくらしと地域の環境保全に貢献します。
  - 2つの「コープの森」への参加を広げます。
  - 電力自由化の学習をすすめる、再生可能エネルギーを電源とする電気を選ぶ組合員を増やします。





野田木質バイオマス発電。



照明の不使用時消灯など節電に取り組んでいます。

## 原子力発電に依存しない事業をめざす取り組み

### 再生可能エネルギーによる発電で 電気使用量の78%相当を手当て

いわて生協は、東日本大震災による原子力発電の重大事故を受けて、「原発をすみやかに廃止し、自然エネルギーを中心としたエネルギー政策への転換」を求めています。また、自らも、原発に依存せずに事業をすすめようと、事業所の電力をすべて再生可能エネルギーによる発電でまかなうことをめざしています。

2016年度の電気使用量は、2,383万kWh（前年比103.4%）。これに対し、風力発電、野田木質バイオマス発電、太陽光発電の再生可能エネルギーによる発電で78%相当を手当てすることができました。

### 創電 風力発電と 木質バイオマス発電が稼働

#### コープ東北羽川風力発電「風みらい1号」

みやぎ生協・コープあきたと共同で2,500kWの風力発電3基（いわて生協1基、みやぎ生協2基）を秋田県に建設し、2016年10月に稼働しました。年間発電量見込みは1,650万kWhで、約4,500世帯の電気使用量に相当し、CO<sub>2</sub>は年間6,980トン削減となります。

#### 木質バイオマス発電

野田村の木質バイオマス発電事業に、いわて生協をはじめ、日本生協連・コープ東北サンネット事業連合などが参加。2016年8月に本格稼働を開始し、一般家庭2万6,800世帯の電気使用量に相当する電力を発電しています。

### 創電 太陽光発電は17事業所に設置 年間発電量は約86万kWhに

2016年度は、セリオホール岩泉、県南センター（増設）、けせんセンター（増設）に太陽光発電を設置。合計17事業所796kWとなり、2016年度発電量は86.4万kWh（一般家庭235世帯分）となりました。

#### 太陽光発電設置事業所

稼働開始年度	事業所名	設置規模(kW)
2006年度	セリオホールみたけ	10
2010年度	釜石センター	20
2011年度	セリオホールみやこ	10
2012年度	ベルフ牧野林	49
	久慈センター	20
2013年度	けせんセンター	20
	ベルフ山岸	49
	県南センター	31
2014年度	セリオホール牧野林	16
	ベルフ八幡平	99
	コープ関コルザ	80
	盛岡南センター	74
2015年度	宮古センター	25
	コープ花巻あうる	98
	セリオホール仙北	43
2016年度	花北センター	58
	セリオホールみたけ(増設)	15
	セリオホール岩泉	20
	県南センター(増設)	49
	けせんセンター(増設)	10
	合計	796



太陽光発電パネルを店舗屋上に設置。

## 事業所での節電や 施設設備省エネ化の取り組み

2016年度は、マリンコープドラ・コープアテルイの売場裏側の作業スペースと、本部東棟にLED照明を導入しました。また、コープアテルイ、ベルフ青山、コープ高松の空調機を省エネ設備に更新しました。

## 廃棄物の削減、リサイクルの取り組み

### リサイクル回収量3,996トンに増加 2017年度からは全量回収をめざして

2016年度のリサイクル活動は、組合員へのよびかけを強化し、全ての回収品で回収量が増加し、3,996トン（前年比106.7%）となりました（詳細は25ページ）。



しかし、いわて生協の供給量からみると、トレイはまだ3割、紙パックなどは8割しか回収されておらず、2017年度からは全量回収をめざした取り組みをスタートします。

### レジ袋節約率は48.3%と低下

6月5日「世界環境デー」に向けた6月2日～5日の4日間を「マイバッグ持参の日」として、店内放送やレジでの声かけ、リサイクル（再利用）袋のご案内などにより90.0%（前年度92.7%）の方にレジ袋節約に協力いただきました。



しかし2016年度のレジ袋節約（マイバッグ持参）率は、平均48.3%（前年度50.3%）と低下しており、2017年度からは改めて取り組みを強めます。

### 2016年度のレジ袋節約効果

節約できたレジ袋	609万枚
石油節約効果（推計）	11万1,264ℓ
CO <sub>2</sub> 削減効果（推計）	29万1,402kg

## 常勤者の節電の取り組み

事業	電気使用量 既存前年比	おもな取り組み
店舗	102.2%	冷設備の温度管理・冷蔵庫・冷凍庫照明の不使用時消灯・コスト削減委員会活動による進捗管理他
共同購入	104.1%	蓄冷剤凍結庫の週末運転停止・事務所空調の温度管理
本部	97.9%	ウオームビズ・クールビズの取り組み・ノー残業デー他
セリオ	96.1%	不使用部屋の照明・空調管理
介護福祉	98.3%	不使用施設の照明・空調管理、退勤時不使用電源点検

### 生ごみリサイクル率61.8%

店舗の生ごみリサイクルは322トン（前年比106.9%）、リサイクル率は61.8%でした。

盛岡・滝沢地区店舗は、小岩井農場（バイオパワーしずくいし）で発酵ガス発電や液肥の原料として58トンが活用されています。コープアテルイ（奥州市）では、オーガニック金ヶ崎で堆肥の原料として30トン、ベルフ西町（宮古市）とコープ一関コルザ（一関市）では、動物の餌に10トンが再利用されています。その他に魚のアラや惣菜の油は、飼料や肥料の原料として205トンが再利用されています。

※食品リサイクル率は、法律で55%以上が目標です。

### 古紙回収機は5店舗で 684トン回収

新聞やチラシなどを回収する古紙回収機を、5店舗（ベルフ仙北、コープアテルイ、コープ一関コルザ、マリンコープドラ、コープ花巻あうる）に設置しています。2016年度は684トン（前年比121%）を回収しました。



### 家庭用の使用済み揚げ油 約2万5千リットルを回収

使用済み揚げ油の回収量は、2万4,938ℓ（前年比104.4%）でした。使用済み揚げ油を精製したBDF（バイオディーゼル燃料）の使用量は、3,917ℓ（前年比11%）。2016年度でBDFを使用できるトラックがなくなったため、飼料原料として再利用しています。





コープの森 in まえさわ生母の植樹活動。



コープの森 in くずまきの植樹活動。

## 持続可能な地域社会をめざして 組合員活動の取り組み

### 2か所の「コープの森づくり」に 239人が参加

岩手の豊かな森林を残していこうと、2010年から組合員参加で取り組んでいる「コープの森づくり」。1つ目の「コープの森 in くずまき」は、7回目の植樹を2016年6月に葛巻町で実施。組合員・常勤者83人が参加しトチノキなどの苗木300本を植樹。委託分と合わせこの7年間で1万3,200本を植樹しました。

2014年度からスタートした「コープの森 in まえさわ生母～国の天然記念物イロハモミジの森づくり」は、3年目を迎え、7月の下草刈には48人が参加、11月の第2回植樹には組合員・常勤者55人が参加し、イロハモミジの苗木30本を植樹しました。

### 「コープの森づくり基金」の収入は 238万円に

2012年5月に「コープの森づくり基金」を設立し、組合員のリサイクルで回収した紙パックの益金と共同購入チラシ益金の一部、「苗木1本募金」、お取引先企業協賛企画による募金を積み立てています。

2016年度の収入は238万円（前年比100.5%）となりました。みちのくコカコーラ様の協賛で、「対象飲料1本利用につき1円がコープの森募金となる企画」を継続しました。

一方で組合員による「苗木一本募金」は、熊本地震募金を優先し店舗で行わなかったことから、7万9千円（前年比36.6%）と苦戦しました。「コープの森」2ヶ所の支出は233万円となっており、募金を増やし基金を拡大することが課題です。

### 2016年度環境活動基金収支報告

収入	苗木一本募金	7万8,711円
	牛乳パック、共同購入チラシ販売代金	186万5,242円
	協賛金など	44万4,601円
	計	238万8,554円
支出	くずまきの森費用	103万4,699円
	まえさわ生母の森費用	77万2,170円
	広報費用	52万4,969円
	計	233万1,838円
収支	環境活動基金へ	5万6,716円

※コープの森づくり基金の2016年度末残高は381万8,724円となりました。

「コープの森づくり」を支えてくださる企業を募集しています。お問い合わせは、環境事業推進室（TEL 019-687-1321（代））まで。

### エコ棺ご利用による植樹は6,664本に

葬祭事業「セリオ」では、葬儀の棺に環境負荷の小さい「エコ棺」をおすすめしています。この「エコ棺」は管理された森林から採取した木材パークを使用した、特殊三層構造の紙製の棺。木材の使用は従来の棺の3分の2、火葬時の燃焼による排ガス汚染は3分の1に低減されます。また、売り上げの一部をインドネシア・カリマンタン島の熱帯雨林「グリーンアークの森」の植樹活動に寄付しています。

2016年度は1,170件の葬儀のうち418件（35.6%）で使用されました。累計では1,823件となり、2015年度まで実施のモンゴルでの植樹を含め、6,664本の植樹となりました。

## 持続可能な地域社会をめざして 環境に配慮した商品利用普及の取り組み

「産直品」や「アイコープ商品」の利用普及は地産地消を推進し、県内農林水産業の復興・振興に寄与します。また、輸送にかかるエネルギーが少ないことからCO<sub>2</sub>の削減にもつながります。

### 農産チーム

#### 「顔とくらしの見える産直品」 供給高は6億8,433万円

産地の作柄や商品特長、組合員との交流の様子を売り場で知らせる取り組みを強めました。店舗産直コーナーでは生産者のおすすめコメントが定着し、利用に結びつきました。産直収穫祭は組合員と一っしょにおすすしめし、賑わい作りと利用拡大につながりました。

### 水産チーム

#### 三陸産アイコープ商品の 供給高は1億8,041万円 「産直真崎わかめ」利用重量が過去最高に

産直真崎わかめは、組合員・常勤者が産地見学やDVDで商品わかめのよさを学習し、利用を広げることができました。また「アイコープ産直真崎わかめ使用カットわかめ」を開発、「手軽に使える」と好評です。その結果一年間の利用重量は27トンと、過去最高となりました。

### 畜産チーム

#### 産直肉の供給高8億8,785万円 産直アイコープ豚の学習交流が活発に

産直アイコープ豚は、組合員の産地交流や学習会への参加が前年の2倍以上に増え、よさと利用を広げることができました。また産直若鶏、アイコープ豚とも、ひと手間でおいしく食べられる「簡便商品」の利用が広がりました。

### 惣菜チーム

#### 岩手県産食材を使った惣菜商品 供給高は3億5,233万円

岩手県産食材を使った惣菜の供給高は3億5,233万円（目標比101.2%）となり、前年より利用が増えました。産直さくら卵を使ったカツ丼やお好み焼きなど、岩手県産食材を使った商品の供給コンテストを店舗で毎月行い、常勤者の知恵をこめて取り組むことができました。

### 日記・グロサリーチーム

#### 産直品、アイコープ商品 供給高は9億8,904万円に

産直生協牛乳は、前年度好評だった生協牛乳キャラクター「あいちゃん」パッケージを3回作成し、側面には組合員提案の牛乳レシピも掲載しました。産直さくら卵は、メニュー提案をしながら、関連する商品と一っしょにおすすしめしました。産直米は産直交流会を3産地で開催し、115人の組合員が参加。産直収穫祭でのお知らせなどで、前年比108.2%と利用が広がりました。



生協牛乳キャラクター  
「あいちゃん」の  
パッケージは毎回好評です。

## 環境マネジメントシステム（EMS）

いわて生協は2000年に県内流通分野で初めて環境マネジメントシステム（EMS）の国際規格ISO14001の第3者認証を取得し環境活動に取り組んできました。2009年に3回目の更新審査で認証を得ましたが、2010年下期からは独自のEMSに移行しました。EMSの仕組みを生かしながら、省エネ設備や創電などより戦略的なテーマに取り組んでいくことがねらいです。

**内部環境監査** 2016年度から内部監査と統合して実施。2016年9月2日から29日の期間に65事業所で実施し、2件（前年比－7件）の是正がありました。

**環境情報** 環境に関するお申し出は2件ありました。内容は本部構内車両運行による振動で、道路を補修し解決しました。もう1件は、廃食油保管についてのご意見で、行政機関の指導にそって対応しました。

# 環境負荷とリサイクルフロー

## エネルギー・資材の使用

### ■エネルギーの使用

電気……………25,194千kWh  
 LPG……………275,740m<sup>3</sup>  
 灯油……………151,701ℓ  
 ガソリン……………303,864ℓ  
 軽油……………248,975ℓ  
 車両LPG……………26,765ℓ  
 ドライアイス……………528,110kg  
 水……………127,000m<sup>3</sup>  
 (委託車両を含む)

### ■資材の使用

**紙**  
 コピー紙(A4版換算)…13,654万枚  
 コピー紙以外の紙…3,392トン  
 (共同購入・広報物など)

### 容器・包装材

レジ袋……………45,622kg  
 ポリ袋……………8,346kg  
 トレイ(透明トレイ含む)…162,429kg  
 ラップ……………20,300kg  
 共同購入シッパー内袋…9,194kg

### 車両の使用台数(395台)

ディーゼル車……………224台  
 ガソリン車……………190台  
 電気自動車……………7台  
 (2015年3月現在：委託車両は含みません)

## 環境への排出

### ■大気への排出

NO<sub>x</sub> 排出量試算……………185,398kg  
 CO<sub>2</sub> 排出量……………14,787トン

### ■廃棄物

一般廃棄物……………830,823kg  
 廃家電の排出(家電リサイクル法) ……33台

### ■事業活動の中で分別・再資源化しているもの

項目	2016年度	前年比
紙	87,786kg	102.0%
びん・缶	113,111kg	107.0%
発泡スチロール	71,896kg	111.0%
発泡スチロール(減容インゴット化)	38,321kg	88.0%
ダンボール	1,474,095kg	105.0%
廃食油	32,505kg	108.0%
魚アラ	162,395kg	101.0%
肉脂	40,649kg	111.0%
生ごみ	117,258kg	86.0%
共同購入シッパー内袋	9,194kg	88.0%
商品納品時フィルム	1,264kg	107.0%
合計	2,148,474kg (2,148トン)	103.0%

## 組合員のリサイクル活動(店舗・共同購入)

上段：回収量(前年比) 下段：枚数換算値

<b>トレイ(発泡)</b>	41.4トン (102%) 828万枚	トレイ 1,217万枚 に再生
<b>ペットボトル</b>	115.7トン (111%) 192万本	プラスチック製品に再生
<b>卵パック</b>	19.7トン (100%) 116万枚	プラスチック製品に再生
<b>紙パック</b>	54.3トン (104%) 163万枚	北上製紙(一関市)で 紙製品に再生
<b>共同購入チラシ</b>	2,996トン (102%)	アイコープわたしたちの リサイクルトレイトロールに再生 約392万ロール に相当
<b>古紙</b>	685トン (121%)	紙製品に再生
<b>アルミ缶 スチール缶</b>	62.5トン (119%)	アルミ・鉄製品に再生
<b>廃食油</b>	2万4,938ℓ (104%)	飼料原料に

※業者に払い渡して再資源化した数量です。

## いわて生協のリサイクルの流れ

**食品トレイの回収**  
 店舗共同購入 ▶ トレイメーカー エピコ工場 ▶ 再生トレイ

**透明容器、ペットボトル、卵パックの回収**  
 (容器、ペットボトルは店舗のみ)  
 店舗共同購入 ▶ リサイクル業者 洗浄・ペレット化 ▶ プラスチック製品

**紙パックの回収**  
 店舗共同購入 ▶ 古紙回収業者 ▶ 一関市 北上製紙 ▶ 紙製品

**共同購入チラシの回収**  
 生協本部 ▶ 古紙回収業者 ▶ 一関市(上山製紙) ▶ アイコープわたしたちのリサイクルトレイトロール

**古紙の回収**  
 店舗 ▶ 古紙回収業者 ▶ 製紙会社 ▶ 紙製品

**発泡スチロールの回収**  
 店舗 SC, FC ▶ 本部・リサイクル業者で減容処理(インゴット化) ▶ 再生原料として出荷



## 環境活動のあゆみ

1990年 いわて生協 誕生	<ul style="list-style-type: none"> <li>牛乳パックの回収リサイクルを開始。</li> <li>買い物袋節約スタンプ制開始。</li> </ul>	2008年	<ul style="list-style-type: none"> <li>発泡スチロールの減容・リサイクル施設完成。</li> <li>共同購入トラックで燃費改善の取り組み開始。</li> <li>買い物袋節約率が51%となり、50%の目標達成。</li> </ul>
1991年	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済みOCR用紙のリサイクルを開始。</li> <li>食品トレイの回収開始。</li> </ul>	2009年	<ul style="list-style-type: none"> <li>本部構内にBDF精製施設を設置。</li> <li>透明トレイ・ふたの回収リサイクルを開始。</li> <li>盛岡エリア店舗の生ごみ（食品残さ）を小岩井農場内でガス発電・液肥へのリサイクルを開始。</li> </ul>
1992年	<ul style="list-style-type: none"> <li>アルミ缶の回収を青山店（現ベルフ青山）で開始。</li> </ul>	2010年	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コープの森づくり」が葛巻町でスタート。</li> <li>BDF使用が本格化し共同購入トラック24台で走行。</li> <li>県「エコショップ」制度で「特別表彰」（模範的事業活動に対して）を受賞。</li> <li>ISO14001を終了。独自EMS運用へ。</li> </ul>
1993年	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝配達牛乳で、紙パックをリターナブルビン容器（720ml）へ切り替え。</li> <li>レシート用紙を再生紙に。</li> </ul>	2011年	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の使用済み揚げ油回収スタート。</li> <li>「低炭素杯2012」で、特別賞受賞。</li> <li>レジ袋大幅削減に向けた提言書を、岩手県などへ提出。</li> </ul>
1994年	<ul style="list-style-type: none"> <li>包装ラップを非塩ビラップに切り替え。</li> <li>店舗の飲料自動販売機の台数を削減（42台から20台へ）。</li> <li>ギフトの簡易包装紙を開発し、使用開始。</li> </ul>	2012年	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コープの森づくり基金」設立。</li> <li>「古紙回収システム」ベルフ仙北でスタート。</li> <li>県「エコショップ」制度で、コープ高松が総合表彰、いわて生協全店も特別表彰を受賞。</li> <li>太陽光発電3事業所に設置（89kW）。</li> </ul>
1995年	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペットボトルの回収リサイクルを開始。</li> <li>共同購入トラックにLPG（低NOx）を導入開始。</li> </ul>	2013年	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋田羽川風力発電共同事業に基本合意。</li> <li>「食品産業もったいない大賞」で審査委員長賞受賞。</li> <li>県「エコショップ」制度でベルフまつぞのが総合表彰。</li> <li>電気自動車4台を盛岡南センターに導入。</li> <li>「コープの森づくり」奥州市でスタート。</li> <li>太陽光発電3事業所に設置（96kW）。</li> </ul>
1996年	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同購入盛岡3支部で商品案内チラシ回収リサイクルを開始。</li> <li>注文のないOCR注文用紙の回収リサイクルを開始。</li> </ul>	2014年	<ul style="list-style-type: none"> <li>「古紙回収システム」をコープアテルイ・コープ一関・コルザ・マリンコープドラに導入。</li> <li>「できることからECOアクション賞」受賞。</li> <li>県「エコショップ」制度で店舗事業が総合表彰、ベルフ牧野林が部門別表彰。</li> <li>野田村の木質バイオマス発電事業へ出資・参加。</li> <li>太陽光発電4事業所に設置（278kW）。</li> </ul>
1997年	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同購入全支部で商品案内チラシ回収リサイクルを実施。</li> <li>盛岡市「ごみ減量・リサイクル協力店」に認定。</li> </ul>	2015年	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気自動車3台を花北センターに導入。計7台に。</li> <li>県「エコショップ」制度で、いわて生協が総合表彰。</li> <li>太陽光発電4事業所に設置（214kW）。</li> </ul>
1998年	<ul style="list-style-type: none"> <li>回収したペットボトル・卵パックを卵パック原料として再利用。</li> <li>回収した商品案内チラシを原料に、アイコープトレットペーパーを商品開発。</li> </ul>	2016年	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本生協連の新電力会社「(株)地球クラブ」からの電気購入スタート。</li> <li>野田木質バイオマス発電、コープ東北羽川風力発電が稼働。</li> <li>太陽光発電3事業所に設置（796kW）。</li> </ul>
1999年	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイコープ低温殺菌牛乳（200ml）をリターナブルビン容器に切り替え。</li> <li>ペットボトル・卵パック圧縮減容の作業開始。</li> </ul>		
2000年	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内流通業で初めてISO14001の外部認証取得。</li> <li>LPG車両が50台を超え半数以上の導入計画達成。</li> <li>マイバッグ、マイバスケットの本格的普及活動を開始。</li> </ul>		
2001年	<ul style="list-style-type: none"> <li>印刷物に大豆インキを採用。</li> <li>遺伝子組換え原料・飼料の排除の取り組み本格化。</li> </ul>		
2002年	<ul style="list-style-type: none"> <li>買い物袋節約スタンプからカードポイント制に変更。</li> <li>共同購入の内袋を回収し、内部使用のゴミ袋にリサイクル開始。</li> </ul>		
2003年	<ul style="list-style-type: none"> <li>買い物袋節約率が30%を超える。</li> <li>コープアテルイで生ごみ堆肥化リサイクルを開始。</li> </ul>		
2004年	<ul style="list-style-type: none"> <li>印刷物・帳票類の再生紙への切り替えが終了。</li> </ul>		
2005年	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩手県「エコショップ」制度第1号認定を受ける（全店）。</li> <li>「森林（もり）を守る募金」開始。以後、この募金を活用し4年間で県内環境団体へ150万円贈呈。</li> </ul>		
2006年	<ul style="list-style-type: none"> <li>セリオホールみたけに初の太陽光発電を導入。</li> <li>共同購入トラックでBDF使用開始（6台）。</li> </ul>		
2007年	<ul style="list-style-type: none"> <li>買い物袋節約率45%に。50%をめざす新目標を決定。</li> <li>葬祭事業で環境負荷が少ない棺「エコ棺」を導入。</li> </ul>		